

新たに発生が確認された病害虫(*)、今後の発生に注意を要する病害虫等（令和5年）

(1) 病害虫一覧

農作物名	病害虫名	発生地域	発生確認年月	発生・被害の概要等
トマト	トマトキバガ*	弘前市 七戸町 五所川原市 つがる市	令和5年 6月～11月	<p>6月15日に弘前市のトマトハウス付近へ設置したフェロモントラップに4頭誘殺され、7月4日には七戸町のトマトハウス付近へ設置したトラップにも3頭誘殺された。両地点での誘殺数は次第に増加し、9月下旬以降は各地点とも半旬で100頭を超える状況となった。10月下旬以降は数が減少したが、誘殺は11月末まで続いた。</p> <p>幼虫による葉の食害は、七戸町のトラップ設置場所付近の施設トマトで7月末から認められ、9月始めには五所川原市の施設トマトでも食害が確認されたが、いずれも被害程度は低かった。その後、10月中旬につがる市の複数地点のミニトマトと弘前市のトラップ設置場所付近の施設トマトで果実被害を含む多発が認められた。</p> <p>(病害虫防除所、西北農業普及振興室)</p>
ながいも	ツマグロアオカスミカメ	西北・三八 ・上北地域	令和5年 7月～9月	<p>7月中下旬及び9月上旬に県内のながいもほ場において、周辺雑草から発生したと考えられる淡緑色のカメムシの寄生とともにながいもの茎葉に枯れ、褐色の斑点、奇形、穴あきの被害が確認された。</p> <p>五戸町上市川のながいもほ場で被害発生時に多発したカメムシの2個体の種を同定したところツマグロアオカスミカメであった。放飼試験では被害ほ場で認められた症状と同様の被害が発生し、ツマグロアオカスミカメの吸汁行動も観察された。</p> <p>発生源の雑草管理がツマグロアオカスミカメの被害防止につながると考えられる。</p> <p>(野菜研究所、西北・三八・上北農業普及振興室、病害虫防除所)</p>